

竜山石はどんな石 —竜山石と大谷石—

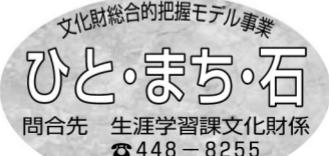
代のもので、いずれも似た性質をもっています。

それに対して、竜山石は中生代白亜紀の、おそらく

竜山石は古墳時代から採石されはじめ、中世の石造物や近代の歴史的建造物などに使用され、さらに現在も採石されつつある貴重な石材です。竜山石は、一般に凝灰岩の仲間であるとされています。凝灰岩というのは火山の噴火で放出された火山灰や石のかけらがたまって岩石になったものです。凝灰岩類の石材産地は日本全国にあり、そのうち主な石材産地を示すと図のようになります。

凝灰岩の石材として最もよく知られているのは、おそらく大谷石でしょう。大谷石は栃木県宇都宮市周辺に分布し、耐火性に富み、

軽く軟らかいため、建物の壁材や塀によく使用されています。その知名度や使用頻度から「東の大谷石、西の竜山石」という言い方ができるかもしれません。しかし大谷石には、風化に弱く、もろく崩れやすいこと、空隙が多く、纖細な細工には不向きであるといふ欠点があります。日



主な凝灰岩類の石材産地

時代 (万年前)	石材		
	第四紀	日本 日本列島 海成	大大陸の一部
新生代 新第三紀 古第三紀 白亜紀	大部分の 凝灰岩類石材 大谷石		
中生代 白亜紀			竜山石
260 2300 6550 14550			

本列島の凝灰岩類石材の大部分は、大谷石と同じ新生第三紀(約二千万年前)またはそれ以降の新しい時

代新第三紀(約二千万年前)まで加工しやすく、細かい細工も可能です。竜山石は極めて優れた石材なのです。

さて、日本列島には竜山石と同じ頃に噴出した凝灰岩類が大量に分布しています。しかし、それらが石材として加工され、石造物などに使用されることとは非常にまれです。なぜ竜山石だけが優れた石材となつたか。この疑問については、稿を改めて紹介することにします。